

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900143		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家伏見深草(ユニット1)		
所在地	京都市伏見区深草小久保町302		
自己評価作成日	平成24年4月21日	評価結果市町村受理日	平成24年7月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々と楽しく共に一緒に過ごすため、職員間の笑顔忘れず、あたたかく楽しい毎日をごして頂くことを大切にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2690900143&SCD=320&PCD=26
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年5月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の中で、利用者が自分の役割を持ち、笑顔で過ごす事が出来るようにとの願いを込めて「温かく明るいたのしい家」という理念を掲げています。利用者に明るい環境を提供出来るように、職員が日々笑顔で接する事を心がけ、利用者の笑顔がみられ、理念に添った明るいホームとなっています。利用者の希望を聞いてそれを実行できるよう、職員はチームワーク良く支援しています。職員のケアの知識や技術の勉強会では、職員が持ち回りで講師を務め、予習をして講義をする事で個々のレベルアップに繋がると共に、ケアの統一が図られています。また、「地域に溶け込んで生活できるように協力する。」との温かい言葉をもらい、災害時の協力も快く承諾が得られ、地域とも良好な関係が構築されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に溶け込んだ事業所となれるよう職員一丸となり努めています。	「温かく明るいたのしい家」という理念は、ホームがその人の家であり、地域の中で笑顔で暮らして欲しいとの願いを込めて開設時に職員間で考えて作っています。勤務前には理念を確認し、毎月の会議では理念に添ったケアが提供できているかを振り返る機会を持ち、日常では職員がいつも笑顔で接することを心がけています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域で行うイベントに積極的に参加し、地域の一員として受け入れて頂けるように努めている。	地域の掃除や避難訓練には利用者と一緒に参加しています。自治会に参加し、回覧板で地域の行事や情報を把握しています。近隣の方々とは日々挨拶を交わし、ホームでのお茶会開催時には地域の方々に参加して頂けるように案内を配布しています。町内からは、「地域に溶け込んで生活できるような支援をする」との言葉をもらっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催で地域の方々に参加できるイベントを企画し、実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議構成員の方々から意見や助言を頂きサービスの向上に努めている。	家族、民生委員、福祉委員、地域包括センター職員参加で2ヶ月に1度運営推進会議は行われており、事業所の状況や行事の報告をし、意見交換を行っています。得られた意見は運営に反映し、次の会議時に対応結果を報告しています。参加しやすいように日時は参加者で決めて行っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政主催の研修、連絡会に参加し、必要に応じて訪問している。	行政の窓口には運営推進会議の議事録を届け、各種書類面や制度上の質問などがあれば相談しアドバイスをもらっています。行政主催の連絡会にも出席し、情報を得ています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について具体的な行為の理解を深めるようにしている。	開設当初、外出傾向にある利用者がおられ、家族と相談の上、各ユニット、玄関とも施錠していますが、外出の希望があれば付き添っています。身体拘束の研修や、ホームで勉強会を開催して、対象となる項目や言葉による拘束についての理解を深めています。	日中の職員配置の多い時間帯や事務所に職員がいる時間帯等を考慮して、解除する時間を検討されてははいかがでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内外の研修に参加し、又は会議にて虐待についての理解を深めると共に防止に努めている。		

グループホームたのしい家伏見深草(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内外の研修に参加し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、運営方針、金銭面、契約内容について十分に説明し、納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見要望を会議、連絡ノートにて情報を共有し運営に反映させている。	家族の来訪時に直接意見を聞いており、出された要望はリーダー会議で検討し、個別に返答しています。新人職員が受講する研修についての質問や、一つ一つの要望に対して、丁寧に対応しています。ホームでの判断が難しい場合は法人に相談して解決策を検討しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で施設の課題を共有している。	月1回の会議で職員は活発に意見交換がなされ、ケアの方向性や業務改善に繋がっています。勤務時間や休憩時間の変更や、勉強会を開いて欲しい等の提案に対して、改善に向け取り組んでいます。年2回の人事考課を兼ねた管理者による面談では個別の意見も聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課があり、職員個々の努力や実績を把握し給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は本社にて3日間の研修を受け、定期的に研修が実施されている。又、研修日誌を作成し個々の能力を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会等に積極的に参加している。		

グループホームたのしい家伏見深草(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの情報を職員間で共有し安心して頂けるようなコミュニケーションをとるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時に現在の状況、不安内容を確認し、出来るだけ迅速に対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今の現状に対しどのようなサービスが適切か、ご家族様、本人と話し合い適切なサービスを受ける事ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	レクリエーションや共同作業を通し、馴染みの関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活を通じて本人の希望や意向を把握し、本人、家族、職員でカンファレンスを行い介護計画を作成し実践している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	継続できるものはホームでも利用している。又、友達や知り合いの方にも定期的に訪問して頂いている。	以前の教え子や旧友の来訪があり交流が続けられています。職員と住んでいた自宅の様子を見に行ったり、家族と墓参りに行ったりしています。家族に電話をかける支援も行い、関係継続の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の日常生活の中で関係性を把握し、食事や外出時のグループ分けをし支え合えるような支援に努めている。		

グループホームたのしい家伏見深草(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりが必要ば場合は相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を伺う事が困難な場合でも、表情や仕草等を観察し、出来る不だけ本人本位になるように検討している。	入居時に聞いた情報を基に、日常で把握した利用者の希望や思いを職員間で共有しています。困難な場合は家族から生活歴や習慣等の情報を得たり、様子や表情を観察して本人の立場になって考えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを利用し、生活歴、馴染みの暮らし方を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、管理日誌、看護記録を通して心身の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族様の意向を把握し必要に応じてカンファレンスを行い、介護計画に反映している。	アセスメントを基に、利用者や家族からの意見を踏まえた介護計画を作成しています。3ヶ月ごとにカンファレンスを開催して日常のケアが計画に添っているかを確認し、見直しに繋げています。医療的な事柄は、医師や看護師からアドバイスをもらい計画に反映しています。	アセスメントは身体状況が中心になっており、把握した利用者の思いや希望が活かされにくい状況です。再アセスメントの際には情報を書き加え計画に反映されてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連絡ノートを利用し、介護計画の見直しに活かしている。家族様との連絡ノートも作成し、活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携での訪問看護、福祉用具、訪問歯科、ボランティア参加等柔軟な対応を心掛けている。		

グループホームたのしい家伏見深草(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、出来るだけ多くの選択肢を入居者様に提供できるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族様に主治医またはクリニックの説明をしている。月2回定期的な往診があり、24時間の電話対応が可能。	契約時に以前からのかかりつけ医を継続するか、ホームの提携医変更するかを決めてもらっています。入居時には診療情報提供書を確認して個々の状態を把握し、月に2回提携医の往診を受けています。以前からのかかりつけの病院や皮膚科、精神科へは家族対応で受診しています。訪問看護の来訪も週に1回あり、緊急時の24時間連絡体制が整えられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時は看護師に来て頂き、必要に応じて適切な医療機関への連携、施設内での対応のアドバイスをしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、家族様と連携を取り、現状の把握し情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の方針を説明し、話し合いをおこなっている。変化に応じてその都度、本人家族様、職員、主治医と話し合いの機会をもち、終末期のあり方の方向性を決めている	入居時に重度化、終末期についてホームでの対応を話しています。重度化が進む中でも意向を聞き、医師も交えて話し合いを重ねて方向を決めたいと考えています。今後、看取りについての理解と知識向上の為に職員間で勉強会を行いたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応については会議やカンファレンスなどで定期的な全職員に説明し実践できるよう指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成し、定期的に消防訓練を行っている。	年1回、消防署の協力と地域の消防団の参加を得て、昼夜想定で避難訓練を行い、独自でも年1回、様々な場面を想定して避難経路の確認等を行っています。地域の方々にも災害時の協力を働きかけています。	

グループホームたのしい家伏見深草(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別の情報を把握し、その方に適した声掛けを行うよう心掛けている。	利用者それぞれの状況を踏まえ、基本的には丁寧な言葉使いを心がけており、不適切な場面が見られた場合は、その都度、職員間でお互いに注意し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望は取り入れ、自己決定ができない方は選択できるよう配慮している。日常のケアの中で思いをくみ取れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の入居者様とのコミュニケーションを通し、出来る限り要望に応じられるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容日、外出先に応じた服装等、身だしなみに気を配る日を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様一人一人能力に応じて食事準備、後片付けをスタッフと共に行っている。	業者より食材が配送されていますが、ホームでは出来るだけ利用者の希望を聞き、献立作りから調理まで出来る事を一緒に行っています。誕生日や行事食、おやつ等も利用者と一緒に作っています。希望がある時には外食にも出掛けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録に残し、好みの食事、飲み物等を把握し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行い、必要に応じて訪問歯科に受診を依頼している。		

グループホームたのしい家伏見深草(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し、個々の排泄パターンの把握、自尊心に配慮した支援を行っている。	排泄記録から個々のパターンを把握してトイレに誘導しています。様子や表情からトイレのサインをキャッチし誘導することもあり、紙パンツから布パンツとパッドに移行できた方が多くいます。トイレの場所が分からないのか、動作に問題があるのか等の失敗の原因を探り解決したいと考えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて個々の排便状況を把握し、なるべく薬に頼らない排便コントロールを心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日等、最低限度の入浴日として設定しているが、本人の希望に応じて多く入浴している方もおられる。	週に2回、曜日を固定しての入浴が基本ですが、希望によって回数を増やしています。拒否傾向の方には無理強いせず、職員交代や声かけを工夫しています。入浴中は職員と一对一の会話や、入浴剤等で入浴が楽しめるように支援しています。重度化に対応できるようにキャリー付きシャワーチェアも置いています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間、起床時間は特に設定しておらず、個々の生活習慣に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を別冊にて管理しており、副作用等に気を配らなければならない内服薬に関してはノートと等を使用し注意を促すとともに変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、買い物、家事等、一人一人の状況に応じた支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ散歩を行っている。又、地域の行事等に参加する機会を持つようにしている。	天気の良い日は近隣を散歩し、帰りに喫茶店に寄るなど、気分転換が図れるようにしています。季節に応じて、家族も一緒に桃山城へ花見に行く等、車で遠出の外出支援をしています。ショッピングセンターにも行き買い物を楽しんでもらっています。	

グループホームたのしい家伏見深草(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力や希望に応じ、お小遣いを自己管理し使う機会を持てるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ電話や手紙のやり取りができるよう支援をしている。定期的に郵便局へ一緒に買い物に行けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく落ち着いた環境で過ごして頂けるよう配色等を配慮し、季節に応じた風物を飾っている。	玄関元には季節の花が植えられ、ベンチを置いて外気浴を楽しみながらお茶の時間を過ごす事ができるようにしています。リビングには季節の花や、利用者の写真や作品を飾り、あえて死角になる廊下にソファを配置しプライバシーに配慮した空間も作っています。また、空気清浄機を設置して空調にも気を配った居心地良い空間作りがなされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは広く、個々のスペースを持てるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく使いなれた家具、馴染みのある物を使用し維持して頂いている。	自宅から大切な仏壇や写真、以前から使っていた鏡台や机等の家具を持ち込まれており、家族には家具の配置等が自宅に近くなるように依頼しています。個々の生活スタイルに応じて、畳を敷いて布団で休むことも出来ます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	簡単に様々なものを使用することが出来るよう配慮している。		